

アイセンターフォトアルバム



David Chu 先生とオープンカンファレンス後の食事会
(左端が David Chu 先生)



ブラジルの Helena Yuri Kurimori 先生が研修にきています
(右から2番目が Kurimori 先生)



台湾から Ray Hsu 先生が見学に来られました
(左端が Ray Hsu 先生)

平成 29 年度外来表

	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
A M						
スタッフ	岡田	平形	渡邊交	慶野	山田	井上
紹介初診	佐野	加藤	安藤	満川	久須見	江本
再 診	井上、廣田 北、山田健 眼窩(今野・柳沼・斎藤)	伊東、鈴木、折原 柳沼、中山 高橋、斎藤	厚東、松木 柳沼、中山、佐野 久須見、津田	厚東、江本、中山 加藤、望月 稲見(第4週)	鈴木、松木、渡邊敏 津田(奇)、斎藤(偶) 川真田、小児(濱・満川)	廣田、高橋、安藤、満川 吉野・斎藤(奇) 柳沼・堀江(偶)
P M						
専門外来	眼炎症 (岡田・慶野・渡邊交・ 中山・安藤)	網膜硝子体 (平形・伊東)	黄斑 (岡田・山本・中山・ 野村・新井)	眼炎症 (慶野)	糖尿病 (平形・小沼)	
	網膜硝子体 (井上・北・廣田)	角膜 (山田・重安・ 藤井・久須見)	緑内障 (吉野(第2週)・北・ 斎藤・五月女・村井)	緑内障 (北)	神経眼科 (気賀沢(偶)・ 渡邊敏)	
	緑内障 (山口)		水晶体 (渡邊交)	黄斑 (岡田・山本・ 中山(偶))	小児 (鈴木・濱・満川)	
				角膜 (山田(偶))		

イベント情報

<第60回東京多摩地区眼科集談会>

2017年10月21日(土) 14:30 ~ 16:30 場所:杏林大学 大学院講堂

会費:1,000円 (日本眼科学会認定専門医2単位)

「糖尿病黄斑浮腫アップデート」 志村 雅彦 先生 (東京医科大学八王子医療センター眼科 教授)

<第19回西東京眼科フォーラム>

2017年11月22日(水) 19:00 ~ 21:00 場所:吉祥寺第一ホテル8F 飛鳥の間

会費:1,000円 (日本眼科学会認定専門医2単位)

「神経眼科関連(仮題)」 三村 治 先生(兵庫医科大学神経眼科治療学講座 特任教授)

編集部からのコメント

眼科の外来、病棟、手術室が一体化した臨床部門の改築が9月に完了します。外来棟の5階すべてがアイセンターになり、情報・カンファレンス室も充実しました。医師、看護師、検査員、事務員などがさらに協力してチーム医療を発展させ、この素晴らしくなった環境を生かしたいとします。期待の新人も入局しました。新しくなったアイセンターをどうぞ見学に来てください。(AH)

Kyorin Eye Center Newsletter

vol. 51
Summer
2017

〒181-8611 東京都三鷹市新川6-20-2 杏林アイセンター Tel: 0422-47-5511 (ext. 2606) Fax: 0422-46-9309

- ◆新病棟の紹介(中山真紀子、渡邊交世)<1> ◆アイセンターフォトアルバム<4>
- ◆1-5病棟の紹介(1-5師長 落合直美、鳥村祥子)<2> ◆平成 29 年度外来表<4>
- ◆2-5病棟の紹介(2-5副師長 前川亜樹)<2-3> ◆イベント情報<4>
- ◆新入局員の挨拶<3> ◆編集部からのコメント<4>

<執筆者:括弧に明記 production:渡邊交世、中山真紀子、仲寫みづき>

新病棟の紹介(中山真紀子、渡邊交世)

杏林アイセンターでは、連日各分野の様々な患者さんをご紹介いただいております。近年では白内障手術を中心とした日帰り手術が普及していますが、網膜剥離や黄斑円孔、増殖糖尿病網膜症などの網膜硝子体疾患、角膜潰瘍や移植の必要な角膜疾患、眼圧コントロールに難渋する緑内障疾患、原田病や時に急性網膜壊死のような緊急性の高い眼炎症疾患、また眼窩腫瘍や視神経炎など画像検査や点滴による薬剤治療を要する疾患など、やはり多くの重篤な疾患の治療では入院治療が不可欠となりますし、白内障であっても傍眼が既に視力を失っているone eyeの状態である場合には安全上入院での手術が選択されます。疾患の緊急性を考慮しながらベッドコントロールを行っておりますが、病床は常に満床に近い状態で、緊急入院が必要な症例では病院中の他科の病床をも捜さなければならないことも多々あります。病棟運営においては看護師サイドが中心となりの確な業務を遂行しているお蔭で、医師サイドも安心して専門業務に打ち込むことができ、両者の連携が非常に大切です。現在、外来棟5階も工事が進んでおり、完成しますと外来・1病棟・2病棟を含めたワンフロアに広がるアイセンターが実現することとなります(図1,2)。今回は一足先に改装工事が完了しました病棟について、皆様にご紹介いたします。

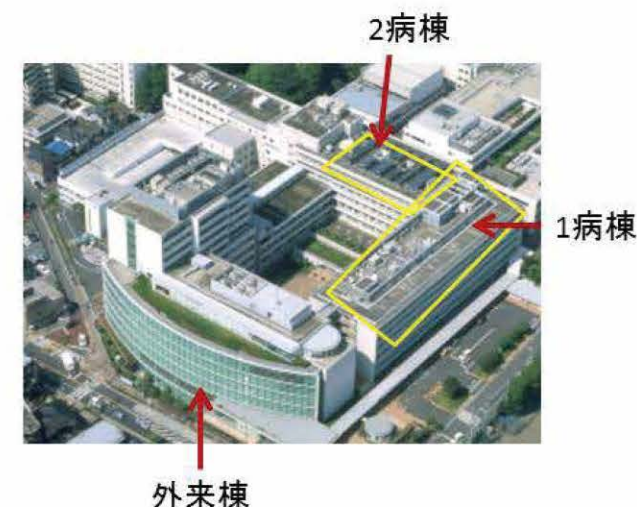


図1: 外来棟・1病棟・2病棟の全景

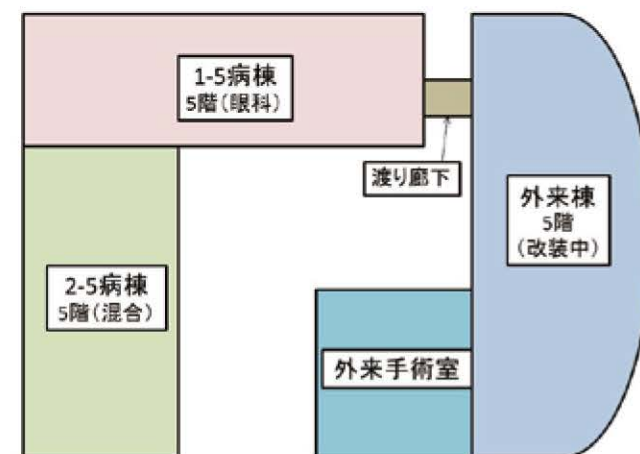


図2: 外来棟5階・1-5病棟・2-5病棟の見取り図

1-5病棟の紹介 (1-5師長 落合直美、島村祥子)

平成26年10月より2-5病棟の改修工事が始まり、1-5病棟は平成28年10月に完成、移転を行いました。第1病棟開設後、ロービジョンに配慮した部分的な改修工事は行っておりましたが、病床数の変更に伴う大規模な改修工事を行うこととなりました。

患者さんが安心して医療を受けられるためにはどうしたらよいか、教育機関でもある大学病院としてどのような医療環境がよいかなど医師や看護師、医療スタッフの意見を伺いながら病棟設計に反映してきました。そして、「武蔵野の森の病院」という当院の設計コンセプトがあり、他の病棟との調和にも配慮しております。ロービジョンに配慮した設計はもちろん、少しでも患者さんがほっとできるような空間を目指して病棟改修工事に携わってまいりました。

改修工事に伴い、病床数は41床から30床となりましたが、工事期間中は他病棟の病床も借りながら、眼科手術件数を減らすことなく病床運営を行うことができました。今年度は1-5病棟と2-5病棟の2つの病棟で眼科患者さんを受け入れることができるようになりました。今秋は眼科外来フロアの改修工事も完了するため、外来から入院・手術に至るまで円滑に治療を受けられる環境となりますので、今後も期待していただけますようよろしくお願いいたします。



A: 病棟入口付近はスペースが広く開放感、すっきりと清潔な印象です。B: 大部屋は全ベッドが窓に面して配置され、広々としたプライベート空間が確保された設計になっています。C: 窓が広く入射光も自然換気ができる個室ベッド。D: 広く設備の整った診察室となり、教育の場所としても使用しています。E: 直線の長い廊下。F: トイレのサインが大きく表示され、見やすくなったと好評です。G: トイレ内のスペースが広く、車椅子での使用も快適になりました。

2-5病棟の紹介 (2-5副師長 前川至樹)

2-5病棟は1-5病棟の改修工事後、平成29年4月1日より開設となりました。病床数は30床で眼科・消化器内科・脳卒中科・整形外科・形成外科の患者が入院となる混合病棟です。1-5病棟よりはひと回りコンパクトな構造ではありますが、視機能低下のある患者さんが快適に過ごすことができるよう、トイレや部屋の入口のサイン、廊下の誘導ライン、各部屋の内部の備え付け物品や配置については1-5病棟と同様のつくりとなっています。各科共同の診察室に加え、アイバンク室、眼科診察室を配置しており、眼科の患者さんは2-5病棟内での診察が可能となっています。術後に使用できるよう、洗眼室も完備しています。

また、1-5病棟やアイセンター外来、外来手術室、すべてが5階となっているため、関係部署へ出棟する際には平行移動で移動することができ、患者にとっても看護師にとっても負担が少なく安全なつくりとなっています。

看護スタッフは、救命救急センターや集中治療室、眼科病棟など様々な部署からのスタッフが配置されており、それぞれの得意分野を生かし、日々協働しながら患者のケアにあたっています。眼科であってもそれ以外の科であっても、全身状態が良好とはいえない患者や高齢者等が多いため、常にフィジカルアセスメントの視点を意識しながら看護することを心がけています。



A: シックな雰囲気のエレベーターホール。B: こだわりの家具で居心地のよくなったデイルームは、多くの患者さんに喜んで使ってもらっています。C: 照明のシミュレーションを何度も行い、快適な空間を作り上げました。

入院時から、退院後や転院後の生活を見越し、生活背景などの情報を収集して、適宜医師やMSW、PT、ロービジョン担当者などと話し合いながら日々のケア介入を実施しています。立ち上げたばかりの病棟です。現在はスタッフ全員で意見を出し合いながら業務改善を繰り返す、院内ルールをもとに、2-5病棟としてのルールづくり、マニュアルづくりをしているところです。4月に配置された8人の新人はそれぞれのペースで成長中です。スタッフ1人1人もまだまだ未熟ではありますが、病棟の穏やかな雰囲気の中、お互いに学びを得ながら成長中です。何かと至らない点もあるかと思いますが、温かく見守っていただければと思いますので、よろしくお願い致します。



2-5病棟内集合にて 左から尾形(ロービジョン)、松本医師、前川副師長、井上教授、落合師長、島村副師長、平形教授



日1-5病棟スタッフステーションにて

新入局員の挨拶



加藤 悠

初めまして、本年4月よりVRフェローとしてお世話になっております加藤悠と申します。横浜市立大学卒、NTT東日本関東病院で初期研修後、東京医療センター、都立駒込病院を経て現在眼科7年目です。この度平形教授を始めとする医局員の先生方のご厚意によりアイセンターで学べることを大変嬉しく思っております。これまでの病院では剥離の患者さんが来るとそれだけで事件でしたが、アイセンターでは初診から全く自分が把握せず退院していく剥離の患者さんも多くただただキャパシティの大きさに狼狽する日々です。それだけの症例数と、何よりアイセンターならではの教育的な風潮並びに最善の治療を追及していく先輩方の姿勢に触れられることは大きな喜びです。またVR以外の眼炎症、AMD、角膜、緑内障、眼窩、小児、神経、腫瘍、ロービジョン等の診療に携わり専門的な治療経過を追うことができるのも眼科医として今後大きな財産になると思います。色々とお迷惑をおかけすると思いますが何卒宜しくお願い申し上げます。



久保 さえ子

今年4月より、杏林大学病院眼科に入局致しました久保さえ子と申します。出身は岩手医科大学ですが、実家が近いこともあり研修先として杏林大学病院を選びました。学生の頃から興味があった眼科をローテートした際、幅広い分野の様々な疾患があり、先生方が丁寧に指導して下さってますます興味を持ち、この環境で勉強したいと思い入局を決めさせていただきました。患者数も多く大変なこともあると思いますが、多くの疾患を経験できる恵まれた環境であることを嬉しく思い、精一杯頑張りますので、御指導御鞭撻のほどよろしくお願い致します。